

工業団地

倉内工業団地の活用は

町長／積極的に誘致活動を推進



米丸文武議員

米丸 町の人口減少を止めるには、若者の就業の場を確保する必要がある。倉内工業団地への企業誘致の状況はどうなっているか。

町長 平成20年4月から、日本特殊陶業(株)の出資する(株)日特製作所が、倉内工業団地に約8000㎡を取得し操業したいとのことであります。

町内企業の中にも同団地への立地を検討されているようであり、今後も積極的に誘致活動を推進します。

薩摩工業団地の宅地化は

町長／工業団地として維持

米丸 薩摩工業団地は造成後10年が経過している。企業誘致が困難とすれば目的を変更して住宅団地として活用出来ないか。

町長 用途の変更は、法的手続きや補助金の返還などが生じます。価格が安いこと、空港や高速道路へのアクセスなど条件が良いことから、積極的にPRして新たな企業の誘致や既存企業の規模拡大のためにも工業団地として維持します。



1企業が進出している薩摩工業団地（薩摩地区）

農政

イチゴ炭疽病対策は

町長／撲滅に向けて取り組む



山崎文久議員

山崎 近年、イチゴの炭疽病が蔓延し、生産農家は危機的状況である。この現状をみて、どのような支援、対策を考えるか。

町長 今年4月に、生産農家代表、農協、市町、普及センター、農林事務



健全ないちごの親株の配布（時吉地区）

所等の関係機関で構成する「さつまイチゴ団地イチゴ健全苗増殖施設利用協議会」を結成し、健全苗の供給に努めています。農家の窮状は十分理解しており、炭疽病撲滅に努力します。

農地・水・環境保全向上対策は

町長／町内8地区を計画

山崎 品目横断的経営安定対策と両輪をなす「農地・水・環境保全向上対策」の本町の取り組みと今後の考え方について

その他の質問
・豪雨災害後の農地復旧について

来年度から5か年の事業で、合意のとれた8地区を計画しています。

町長 農地・生態系、景観等の農村保全や減農薬、減化学肥料による環境負担低減等、先進的な営農活動に支援するものであり、現在、甫立地区でモデル事業として取り組んでおります。